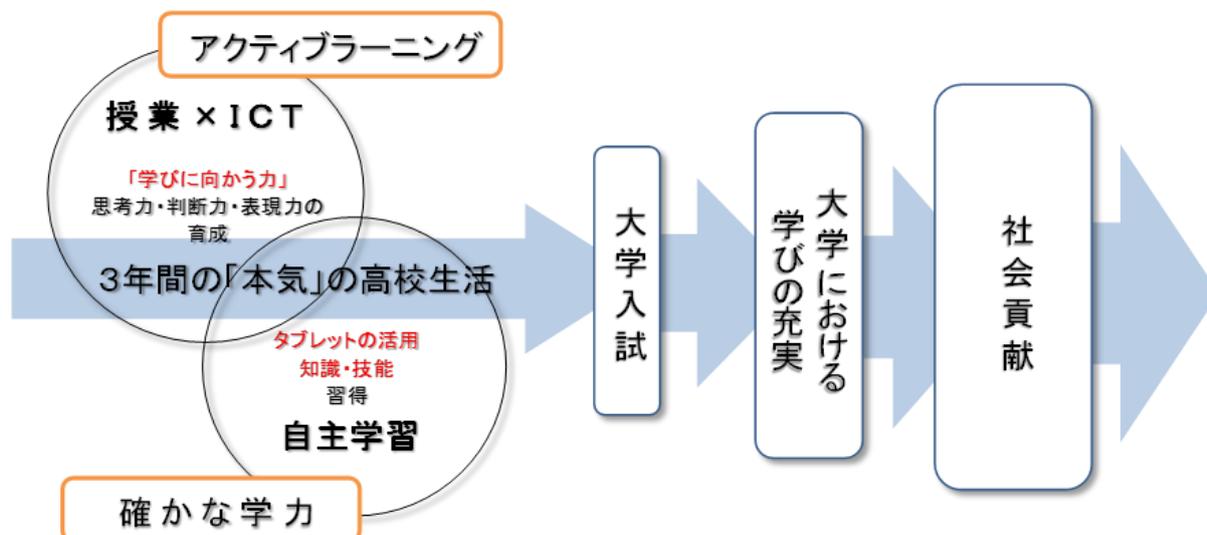


令和8年度科目履修案内 第1学年 目次

		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
1年生の学習の指針		2
単位の履修と修得、卒業の認定について		4
令和7年度入学生教育課程表(普通科・理数科)		5
<各教科より>	コース・科	
1 国語科		7
	現代の国語	8
	言語文化	10
	観点別評価	12
2 地理歴史科	地理総合	14
	観点別評価	16
3 公民科	公共	17
	観点別評価	18
4 数学科		19
	数学Ⅰ、数学A	23
	SS理数数学Ⅰ	25
	観点別評価	27
5 理科		29
	化学基礎	30
	生物基礎	32
	SS理数化学	33
	SS理数生物	35
	観点別評価	36
6 保健体育	体育	39
	保健	43
	観点別評価	45
7 芸術科	音楽Ⅰ	47
	観点別評価	49
	美術Ⅰ	50
	観点別評価	52
	書道Ⅰ	53
	観点別評価	55
8 英語科	英語コミュニケーションⅠ	56
	論理・表現Ⅰ	57
	観点別評価	58
9 家庭科	家庭基礎	59
	観点別評価	61
10 STEAMS TIME Ⅰ		62

# 大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。  
どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？  
多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。  
「本気の学習」を大切に、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。  
大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

## 授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。  
大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。  
自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。  
授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。  
希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。  
ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成  
「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

## 自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。  
社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向かった努力が必要です。  
通学時間や部活動等によって個々の時間の使い方は変わります。  
個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。  
3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、  
個々の日々の学習計画を構築していきましょう。  
苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。  
学習計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。  
理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長  
海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

## 1学年の学習の指針

### 基本的な姿勢

1年生は、学業面においても早く高校生になることが第一の目標です。  
次に、学業は当然として部活動・学校行事にも積極的に参加し、多くの人と接することを通して視野を広げることが第二の目標です。

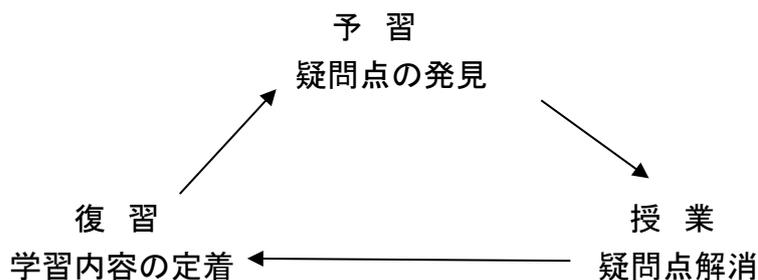
最後に、職業について学び、将来どのような職業に就きたいのかを考えることが第三の目標です。2学年では、その職業に就くための具体的な進路方向について調べます。

#### その対策として

- ① 将来の職業についてしっかりした意識を持つ
- ② 充実した高校生活を過ごす → 日々の自分を振り返る
- ③ 定期考査毎に目標を定めて頑張る
- ④ 得意科目をつくる → (例) 英語であれば 英検2級以上の取得
- ⑤ 自発的な学習習慣の確立 → 1日あたり2時間の学習  
学習の『黄金の三角形』の確立
- ⑥ 保護者や友達、先生などに相談し、3年間を見通した学習計画を立てる。

### 学習の目標

- ① 予習・復習の習慣をつける。高校の学習は、かなり高度であることを早期に認識する。  
予習 → 授業 → 復習 の『黄金の三角形』の確立



- ② 定期考査毎に、綿密な学習計画を立て実行し、結果について検討する。
- ③ 学習について、身近な目標を持つ。
- ④ 模擬試験を受け、弱点を理解しその補強に努める。  
必要に応じて中学校レベルの復習をする。

## 方 策 …個々の努力目標 学習のPDCAサイクルの確立

- ① 定期考査を目安に Plan (計画) Do (実行) Check(評価) Action(改善)を繰り返し、学習習慣を定着させ、学力の向上を目指す。
- ② 模擬試験を積極的に受け、全国における自分の位置を把握し、志望校合格への学力差を確認する。  
→ STEP UP 目標の明確化
- ③ モチベーションを維持するため、具体的な目標をもつ  
例えば、クラスで10位以内 数学はクラスで5番以内など身近なものでよい。
- ④ 3年間のカリキュラムについて理解を深める。…進路研究の勧め
- ⑤ 学習に対するクラスでの雰囲気作り 朝学習の時間を大切にしたい思いやりと向上心  
→ 自信ができ、更なる飛躍が期待できる。→集団による学力 UP
- ⑥ 英単語を寝る20分前、又は通学時間等を利用して暗記する。
- ⑦ ニュースに関心を持つ。社会について最新の情報を得ることは大切です。
- ⑧ 休日の学習時間を確保する。…普段できない部分をカバーする。
- ⑨ 自習時間など、隙間時間の積極的な利用。

## 学習計画

### いつ、どこで、どのように学ぶか？

授業の受け方、朝学習、勉強マラソン、自習室を活用、積極的に質問に行く…

### 第1学期 大宮北の学びに触れる

スタートダッシュを上手にする。→ 一日でも早く高校生になる。  
初めての定期考査、模擬試験、自分を知る。  
志望校と受験科目について研究をする。  
3年間のカリキュラム、これからの選択肢について理解を深める。  
ST I を生かし、学びの幅を広げる。

### 第2学期 課題研究の学びに触れる

模擬試験の結果を吟味する。→全国レベルとの確認→新たな学習意欲  
ST II、サイエンスABの決定…新たな具体的目標の設定  
課題研究の方法を学ぶ。

### 第3学期 発信力の向上

模擬試験の結果を吟味する。→1年11月との比較  
自分の学び方、学力を客観的に把握して対策を練る。  
自己の学びについて発信する。  
他者の学びを知り評価する。

## 単位の履修と修得、卒業の認定

### (1) 単位とは

各教科・科目の学習において、高等学校ではその学習量を表す基準を「**単位**」といいます。1単位とは、ある科目について1週間あたり1授業時間（50分）を1年間学習した学習量です。言い換えれば、1週間に授業が2時間ある科目は、1年間で2単位ということです。例えば「英語コミュニケーション I」は3単位ですから、1週間に授業が3時間あるということです。

### (2) 「単位を取る」とは

高等学校では、学校に登校しているというだけでなく、授業にきちんと出席し（**履修**）、しっかり勉強して学習した内容を身につけなければ（**修得**）、卒業できません。言い換えれば、卒業するためには、必要な「単位」を「**履修**」し、「**修得**」しなければなりません。これが、いわゆる「単位を取る」ということです。

### (3) 履修とは

授業にきちんと出席し、学習に励むことを「履修」といいます。出席状況が良好なときに「履修が認定」されます。履修が認定されないと、どんなにテストの点数が良くても、単位は取れません。本校では、ある科目の**欠課時数（授業の欠席時間数）が標準授業時数（35×単位数）の3分の1未満**のとき、その科目の単位を履修したと認定します。**年度末に1科目でも履修が認定されない場合、進級または卒業はできず原級留め置き**（いわゆる「留年」）となり、再び同じ学年を繰り返すこととなります。

各学期においては1学期を11週、2学期を14週、3学期を10週として、**各学期の標準授業時数（週×単位数）**を算出します。欠課時数が多く、各学期の標準授業時数の3分の1を超えてしまう場合、その学期の評価は原則保留となります。

### (4) 修得とは

ある科目の学習内容を身につけることを「修得」といいます。履修が認定された科目について、学習状況が良好である場合に、単位の「修得が認定」されます。履修が認定されても、修得が認定されないと、単位を取ったことにはなりません。ある科目について**評定（学年末の成績）が5段階の「2」以上**のとき、その科目の単位を修得したと認定します。評定が「1」だったときは欠点（いわゆる「赤点」）となり、その科目の単位の修得は認定されません。

1、2学期の通知表には**評価（学期の成績）**が5段階で示されます。評価が「1」であることは、学年末評定が「1」になる可能性が高いと判断され、特別補習等の対象者となります。

### (5) 進級・卒業の認定条件

本校では、学年ごとに学習する科目が定められており、それらの科目（「総合的な探究の時間」を含む）のすべての単位（学校によっては一定基準以上の単位）を取り、特別活動を履修して成果が満足できると認められる場合に、その学年の「修了」が認められ、次の学年に「進級」します。こうして進級を繰り返して、最終学年の修了が認められると「卒業」できるわけです。

必要な単位が取れずに学年の修了が認められない場合には、原級留め置きとなり、もう一度その学年の科目をすべてやり直さなければなりません。この場合、履修や修得が認定されるはずの他の科目も、すべて認定されません。

### (6) 課題考査、定期考査

**課題考査、中間考査、期末考査**は学習状況を確認する大切なテストです。欠席をしないように体調管理をしっかりとしましょう。やむを得ず欠席する場合は「**考査欠席届け**」の提出が必要となります。

令和8年度入学生 教育課程表(普通科)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年			計	
					A 1	A 2	B		
教科	科目								
各学科に共通する 各教科・科目	国語	現代の国語	2	2				12~18	
		言語文化	2	2					
		論理国語	4		2	3	3		2
		古典探究	4		3	3	4		1
		文学国語	4			3			
	地理歴史	地理総合	2	2				5~14	
		歴史総合	2		3				
		日本史探究	3			●5	●5		
		世界史探究	3			●5	●5		
		地理探究	3				○4		○3
		(学)歴史探究(日本史)				○2			
	(学)歴史探究(世界史)				○2				
	公民	公共倫理	2	2				2~6	
		政治・経済	2			○2	○2		
		(学)公共探究	3			○2	○2		○3
	数学	数学Ⅰ	3	3				11~18	
		数学Ⅱ	4		4				
		数学Ⅲ	3						4
		数学A	2	2					
		数学B	2		2				
数学C		2					3		
(学)数学探究		2~4			○2	4			
理科	物理基礎	2		2			10~20		
	物理	4						●5	
	化学基礎	2	2						
	化学	4						5	
	生物基礎	2	2						
	生物	4						●5	
	地学基礎	2		○2					
	(学)サイエンス化学	2		○2					
	(学)サイエンス物理	2		●2					
	(学)サイエンス生物	2		●2					
	(学)化学探究	3				▲3			
(学)地学探究	3				▲3				
保健体育	体育保健	7~8	3	3	2	2	2	10	
芸術	音楽Ⅰ	2	●2				2		
	美術Ⅰ	2	●2						
	書道Ⅰ	2	●2						
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				16~19		
	英語コミュニケーションⅡ	4		3					
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4		4	
	論理・表現Ⅰ	2	2						
	論理・表現Ⅱ	2		2					
	論理・表現Ⅲ	2			2	2		2	
	(学)英語特講				3				
家庭	家庭基礎	2	2				2		
開設される各教科・科目において	家庭保育基礎	2~6			▲2		0~2		
	音楽演義研究	2~6			▲2				
	美術クラフトデザイン	2~10			▲2				
	書道実用の書2608	2~4			▲2				
	体育スポーツⅡ	2~12			▲2				
	SS理数	STEAMS TimeⅠ	2	2					
	BEST CLaSS	1	1						
	STEAMS TimeⅡ	2	2						
	STEAMS TimeⅢ	1			1	1	1		
小計			32	32	32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	1	1	3	
合計			33	33	33	33	33	99	
(過当たりの授業時数)			(34)	(34)	(34)	(34)	(34)	(102)	
備考		1年 ●印から1科目選択 2年 ●、○印からそれぞれ1科目選択 3年 (A1) ●、○、▲印からそれぞれ1科目選択。 (A2) ●、▲印からそれぞれ1科目選択 ○印の選択は以下の(ア)または(イ)または(ウ)を選択する。 (ア)地理探究 (イ)政治・経済、公共探究 (ウ)倫理、公共探究 (B) ●、○印からそれぞれ1科目選択。 1年 「STEAMS TimeⅠ」 SSH指定校として情報Ⅰ(2単位)の代替 2年 「STEAMS TimeⅡ」 SSH指定校として課題研究の内容に応じて選択 理数探究、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーションⅡ」を1単位分減算					・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位  ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位		

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教科	科目						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	2	2		11	
		言語文化	2	2			
		論理国語	4		2		2
		古典探究	4		2		1
	地 理 歴 史	地理総合	2	2		7	
		歴史総合	2		2		
		地理探究	3				3
	保 健 体 育	公民	2	2		2	
		体育	7~8	2	3	2	
	芸 術	音楽 I	2	● 2		2	
		美術 I	2	● 2			
		書道 I	2	● 2			
	外 国 語	英語コミュニケーション I	3	3		16	
		英語コミュニケーション II	4		3		
		英語コミュニケーション III	4				4
		論理・表現 I	2	2			
		論理・表現 II	2		2		
		論理・表現 III	2				2
	家 庭	家庭基礎	2	2		2	
主 として 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	S S 理 数	SS理数数学 I	5~7	6		47	
		SS理数数学 II	7~9		6		
		SS理数数学特論	4~6				7
		SS理数生物	6~8	2	2		● 5
		SS理数化学	6~8	2	2		5
		SS理数物理	6~8		4		● 5
		STEAMS Time I	2	2			
		BEST CLaSS	1		1		
		STEAMS Time II	2		2		
		STEAMS Time III	1				1
小 計			32	32	32	96	
特 別 活 動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	3	
合 計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備 考		1年 ●印から1科目選択 3年 ●印から1科目選択 1年 「SS理数数学 I」 S S H指定校として「理数数学 I」(6単位)の代替 2年 「SS理数数学 II」 S S H指定校として「理数数学 II」(6単位)の代替 3年 「SS理数数学特論」 S S H指定校として「理数数学特論」(7単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数生物」 S S H指定校として「理数生物」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数化学」 S S H指定校として「理数化学」(9単位)の代替 1, 2, 3学年 「SS理数物理」 S S H指定校として「理数物理」(9単位)の代替 1年 「STEAMS Time I」 S S H指定校として情報 I (2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 S S H指定校として理数探究(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーション II」を1単位分減単				・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位  ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位	

# 1 国語科

## ◆ 国語という教科 … 日常の積み重ねを大切に

教科の学習を通して、生涯にわたる社会生活において他者との関わりにおける伝え合う力や、思考力や想像力を身につけられることが最終的な目標となります。そのためにも、多くの作品に触れ、自分なりの意見を持ち、他人の考えからヒントをもらい、さらに考えを深められるように学習していきましょう。

国語の学習は、読解力・表現力だけではなく感性を磨き、思考力を高め、豊かな感受性を育むことにつながります。日頃から、語彙力を豊かにし、いろいろな文章に触れ、人の話に耳を傾け、自らも文章を書き、発言してみることが大切です。

また、そのためにも語彙や文法などの基礎知識が重要となってきます。正しい意味、言葉の使い方方を身につけ、自在に扱えるようになることを目指しましょう。

## ◆ 1年時の科目

### <現代の国語>

「現代の国語」で扱うのは、主に《論理的な文章》や《実用的な文章》です。ただ文章を読んでいくのではなく、話し合い活動や書く活動を通して、自分の考えを深めたり他者の意見から多面的に物事を捉えられる力を身につけたりしていきます。そのためにも、まずは自分の意見をしっかりとつこと。また、文章を正確に読み取る語彙力や文法力が必要となります。

他の教科にも影響する、「論理的に考える力」や「実社会に必要な知識」を身につけ、養っていく科目です。

### <言語文化>

「言語文化」で扱うのは、《近現代の小説》《古文》《漢文》の作品です。範囲は広く、初めて本格的に学習する古典の内容もここで扱います。日本語の言語文化を学んでいきます。言語文化でも「自分がどう感じたのか」を表現することが重要です。そのためには、正確に文章を読み取る力も求められます。そして、古典作品では現代の日本語とは違う単語や文法を学ぶ必要があります。

そうした学習を通して、日本の言語文化に対する理解を深めていく科目です。

## ◆ 「古典」の学習について

### <古文の学習>

日本における、近代よりも前の文学作品を「古文」といいます。ジャンルは詩歌や物語、随想など多岐にわたります。一番の特徴は「言葉の違い」です。現代の言葉遣いからイメージできる単語もあれば、意味の異なる単語もあります。また、文法も現代の日本語とは異なります。作品の世界を味わい、理解を深めていくためにも「単語」と「文法」のマスターがとても重要です。単語帳や文法書を活用し、正しい知識を身につけましょう。

### <漢文の学習>

「漢文」は漢語（中国の文語）を用いて書かれた文章や詩です。高校の授業で扱う作品は限られていますが、詩歌や物語など様々な作品に触れます。中国の言葉で書かれているので、「句法」や「語彙」など新しく学ばなくてはならないことがたくさんあります。『漢文必携』や『常用国語便覧』を活用し、古文同様に正しい知識を身につけましょう。

## ◆ 課題考査

◎長期休業明けには、前学期までの既習内容や長期休業中の課題の定着度を測るために課題考査が実施されます。

◎【現代の国語】【言語文化】、それぞれ基礎知識や文章読解の問題が出題されます。

◎試験範囲は、はじめの授業で伝えられますので、購入した教材を活用して計画的に学習してください。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
現代の国語		2	探求 現代の国語 [桐原書店]	『新訂版常用国語便覧』(浜島書店) 『TOP2500』(いっずな書店)		
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	1 評論Ⅰ 「ほどほどのデザイン」(佐藤卓)	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 全体の構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張に対する自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	2 評論Ⅱ 「サイボーグとクローン人間」 (山崎正和)	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 全体の構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張に対する自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	3 評論Ⅲ 「遅れてきた「私」」 (若林 幹夫)	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 全体の構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張に対する自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期 期末	4 評論Ⅳ 「わかれとうする姿勢」 (鷺田清一)	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 全体の構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張に対する自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	5 評論Ⅴ 「AIの判断」 (船木亨)	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 全体の構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張に対する自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。	○	○	○

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
言語文化		2	探求 言語文化 [桐原書店]	『新訂版常用国語便覧』（浜島書店） 『Key&Point古文単語330』（いいずな書店） 『新しい古典文法』（桐原書店） 『五訂版漢文必携』（桐原書店）		
【到達目標】		<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
【学習上の留意点】		<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	古 古文入門『宇治拾遺物語』 ・「児のそら寝」 【重点文法事項】 ・古文の特徴	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いを正しく読めたか。 <input type="checkbox"/> 古文単語正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 古典文法を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 本文を適切に現代語訳し、文章の構成や展開を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品に関わる情報を整理できたか。	○	○	○
		漢 漢文入門 ・訓読の基本 ・故事成語	<input type="checkbox"/> 漢和辞典を活用できたか <input type="checkbox"/> 正しく訓読ができたか <input type="checkbox"/> 句形を正しく理解できたか <input type="checkbox"/> 適切な現代語訳ができたか <input type="checkbox"/> 自分の意見を持つことができたか	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	古 随筆『徒然草』 ・「ある人、弓射ることを習ふに」 【重点文法事項】 ・活用のある自立語	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いを正しく読めたか。 <input type="checkbox"/> 古文単語正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 古典文法を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 本文を適切に現代語訳し、文章の構成や展開を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品に関わる情報を整理できたか。	○	○	○
		漢 史伝（寓話）	<input type="checkbox"/> 漢和辞典を活用できたか <input type="checkbox"/> 正しく訓読ができたか <input type="checkbox"/> 句形を正しく理解できたか <input type="checkbox"/> 適切な現代語訳ができたか <input type="checkbox"/> 自分の意見を持つことができたか	○	○	○

9月 ～ 10月	2学期 中間	古 日記『土佐日記』 ・「門出」 【重点文法事項】 ・助動詞	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いを正しく読めたか。 <input type="checkbox"/> 古文単語正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 古典文法を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 本文を適切に現代語訳し、文章の構成や展開を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品に関わる情報を整理できたか。	○	○	○
		漢 詩文 ・絶句と律詩	<input type="checkbox"/> 漢和辞典を活用できたか <input type="checkbox"/> 正しく訓読ができたか <input type="checkbox"/> 句形を正しく理解できたか <input type="checkbox"/> 適切な現代語訳ができたか <input type="checkbox"/> 自分の意見を持つことができたか	○	○	○
		現 小説 ・「羅生門」	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 場面・状況を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 人物の行動・心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 主題について自分の考えが持てたか。	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	古 歌物語『伊勢物語』 ・「芥川」 和歌 ・『万葉集』・『古今集』 ・『新古今集』 【重点文法事項】 ・助動詞 ・和歌の修辭法	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いを正しく読めたか。 <input type="checkbox"/> 古文単語正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 古典文法を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 本文を適切に現代語訳し、文章の構成や展開を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品に関わる情報を整理できたか。	○	○	○
		漢 思想 ・「論語」	<input type="checkbox"/> 漢和辞典を活用できたか <input type="checkbox"/> 正しく訓読ができたか <input type="checkbox"/> 句形を正しく理解できたか <input type="checkbox"/> 適切な現代語訳ができたか <input type="checkbox"/> 自分の意見を持つことができたか	○	○	○
		現 小説 ・「城の崎にて」	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 場面・状況を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 人物の行動・心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 主題について自分の考えが持てたか。	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	古 作り物語と軍記物語『平家物語』 ・「木曾の最期」 【重点文法事項】 ・助動詞 ・敬語表現	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いを正しく読めたか。 <input type="checkbox"/> 古文単語正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 古典文法を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 本文を適切に現代語訳し、文章の構成や展開を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品に関わる情報を整理できたか。	○	○	○
		漢 日本の漢文	<input type="checkbox"/> 漢和辞典を活用できたか <input type="checkbox"/> 正しく訓読ができたか <input type="checkbox"/> 句形を正しく理解できたか <input type="checkbox"/> 適切な現代語訳ができたか <input type="checkbox"/> 自分の意見を持つことができたか	○	○	○
		現 短歌 ・近代の短歌 ・近代の俳句 ・近代の詩	<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 場面・状況を正しく理解できたか。 <input type="checkbox"/> 人物の行動・心情を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 主題について自分の考えが持てたか。	○	○	○

## 観点別評価ルーブリック

教科 国語  
科目 現代の国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	定期検査 課題検査 小テスト	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるとができる。	定期検査 課題検査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が標準的である。	該当問題40%未満の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わろうとする態度を養う。	定期検査 課題検査 小テスト 行動観察等	試験80%以上程度の得点率 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が優れている。	試験40%以上80%未満程度の得点率 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が標準的である。	試験40%未満の得点率 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動に乏しい。

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目  
国語  
言語文化

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	定期考査 課題考査 小テスト	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるとができる。	定期考査 課題考査 観察等	該当問題80%以上程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が標準的である。	該当問題40%未満の得点率 自己が思考・判断・表現したことに ついての成果物・発表力が乏しい。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わろうとする態度を養う。	定期考査 課題考査 小テスト 行動観察等	試験80%以上程度の得点率 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が優れている。	試験40%以上80%未満程度の得点率 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動が標準的である。	試験40%未満の得点率 自己の学習への振り返り・改善への 意欲・行動に乏しい。

## 2 地理歴史科

### 《地理総合》

#### ○「地理学」とはどのような学問なのか

「地理学」について、『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』では「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事象を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問。」と定義づけられています。すなわち、地球上で起こっている様々な事象について、文理の枠組みにとらわれることなく、総合的な理解を目指している学問であるといえるのではないのでしょうか。

「地理学」には大きく2つのアプローチ方法があります。皆さんが受講する「地理総合」では、主に「系統地理学」的なアプローチで学習を進めていきます。この「系統地理学」は、地理的条件と人類との一般法則を導き出すことを目指す学問分野です。具体的には、地形や気象などの自然現象について考える「自然地理学」と、産業や生活文化などの人間が形成した地表の現象について考える「人文地理学」から構成されています。ちなみに、もう1つのアプローチ方法は「地誌学」といい、特定の地域の状況を体系的に記述することを目指す学問分野です。

#### ○地理を学習する意義

高校生が地理を学習する意義はどこにあるのでしょうか。よく言われるのは「一般教養として知っておくべき」という理由です。もちろん、地理は一般教養としての側面を持っています。知っていることが多い方が、世界がより鮮やかに見えることもあるでしょう。他には「受験科目として必要」という理由を挙げる人も多いと思われます。この理由は、地理を学習する理由として非常に現実的なものです。

しかし、それ以上に地理を学習する大きな意義があります。それは、「現代社会を見る目」を養うことができるということです。地理を学習すると、地形や気象、産業や生活文化など地球上で起こっている事象を分析するために必要な視点を多く獲得できます。18歳で成人、そして有権者になる前に、私たちの暮らす社会について深い考察ができるように地理を学んでいきましょう。

#### ○授業の受け方

「地理総合」の授業は週に2回程度しかありません。1回1回の授業を大切にしてください。もちろん各自の予習や復習も必要ですが、「地理総合」を学習していくうえで核となってくるのは日々の授業です。何を学習するのかという目的意識をもって、毎回の授業に臨んでください。

教材（教科書、地図帳、資料集）は全クラス共通です。授業中いつでも使えるように、各自準備をしてください。ただし、授業の形式は担当の先生によって異なる部分もあります。例えば、配布したプリントを用いて授業を行う先生がいる一方で、各自が用意したノートを用いて授業を行う先生もいるといった具合です。各クラス授業担当の先生に確認をしてください。

#### ○家庭学習の進め方

まずは、「予習—授業—復習」の「黄金サイクル」を確立してください。これは地歴公民科に限らず、全教科にいえることです。授業を核とした学習スタイルを1年生のうちから確立しておくことは、2年後の大学入試に向けても重要となってきます。

特に、地歴公民科においては「復習」を大切にしてください。教科書、地図帳、資料集など、有効な教材が皆さんの手元にあるはずですが、教材は授業で指示された時にしか開かない、というのではもったいないです。特に教科書は本文を読むだけでなく、地図や写真、統計データなど様々な資料にも目を通し、教材を徹底的に使い込みましょう。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
地理総合		2	地理総合〔山川出版〕	新編フォトグラフィア地理図説2026〔東京法令出版〕		
【到達目標】		<p>●地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>●地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など、概念などを活用して多面的・多角的に考察、地理的な課題の解決に向けて構想、考察、構想したことを効果的に説明、それらを基に議論する。</p> <p>●地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>●多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについて自覚する。</p>				
【学習上の留意点】		<p>① 世界地図が、頭の中で描けるようになる。</p> <p>② 各国の特色や文化、地形や気象条件・位置を理解しよう。</p> <p>③ 世界情勢や現在の状況を把握しよう</p>				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間	第1章 1 球面上の世界 2 世界からみた日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	<input type="checkbox"/> 日本の位置 <input type="checkbox"/> 緯度・経度 <input type="checkbox"/> 時差	○	○	○
6月～7月	1学期 期末	第2章 1 地形と生活文化 2 気候と生活文化 3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	<input type="checkbox"/> 地形の特徴 <input type="checkbox"/> 気候区分 <input type="checkbox"/> 工業・商業 <input type="checkbox"/> 三大宗教	○	○	○
9月～10月	2学期 中間	第3章 1 経済発展と生活文化の変化（東アジア） 2 宗教の多様性と生活文化（ASEAN諸国） 3 水の恵みと生活文化（南アジア） 4 イスラーム社会の多様性と生活文化 5 多様な気候と生活文化（アフリカ）	<input type="checkbox"/> アジアの経済 <input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> 韓国 <input type="checkbox"/> イスラーム世界 <input type="checkbox"/> アフリカの国々	○	○	○
11月～12月	2学期 期末	6 経済統合による生活文化の変化・EUと周辺諸国 7 寒冷な気候と生活文化（ロシア） 8 グローバル化による生活文化の変化（アメリカ・カナダ） 9 土地開発による生活文化の形成（ラテンアメリカ） 10 植民と移民による生活文化の形成・オセアニア	<input type="checkbox"/> EUについて <input type="checkbox"/> EU世界の産業 <input type="checkbox"/> ロシアの生活 <input type="checkbox"/> アメリカ・カナダの多様性 <input type="checkbox"/> ラテンアメリカ・オセアニアの国々	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末	第4章 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題 4 居住・都市問題 第5章 1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査	<input type="checkbox"/> 環境問題 <input type="checkbox"/> 人口問題 <input type="checkbox"/> エネルギー問題 <input type="checkbox"/> 都市問題 <input type="checkbox"/> 防災について <input type="checkbox"/> 地域地図	○	○	○

※ 課題テスト…授業担当者の判断による

※ 実力テスト…授業担当者の判断による

## 観点別評価ルーブリック

教科 地理歴史  
科目 地理総合

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>【知識】 地理に関する諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</p> <p>【技能】 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>講義型授業 対話型授業 調べ学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>
思考・判断・表現	<p>【着目】 地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概念などを活用して多面的・多角的に考察する。</li> <li>・地理的な課題の解決に向けて構想する。</li> <li>・考察、構想したことを効果的に説明する。</li> <li>・それらを基に議論する。</li> </ul>	<p>考察する学習 学習課題解決学習 説明する学習 議論する学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>地理に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛着、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚する。</p>	<p>講義型授業 対話型授業 調べ学習 学習課題解決学習 説明する学習 議論する学習</p>	<p>該当問題を十分満足できる 得点率</p>	<p>該当問題をおおむね満足できる 得点率</p>	<p>該当問題について努力を要する 程度の得点率</p>

### 3 公民科

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
公共	2	公共 [実教出版]	浜島書店 最新図説 公共			
<b>【到達目標】</b>	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。また、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。					
<b>【学習上の留意点】</b>	① あらゆる社会的課題を自分事として捉え、主体的に授業へ参加しましょう。 ② 日ごろからニュースに目を通し、世界情勢を把握するように努めましょう。 ③ プリントやノートを有効的に活用し、定期考査への準備を怠らないようにしましょう。					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期中間	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる	<input type="checkbox"/> 青年期 <input type="checkbox"/> 通過儀礼 <input type="checkbox"/> エリクソン <input type="checkbox"/> 自我 <input type="checkbox"/> ルソー <input type="checkbox"/> 第二の誕生 <input type="checkbox"/> 第二反抗期 <input type="checkbox"/> 人生観 <input type="checkbox"/> 世界観 <input type="checkbox"/> レヴィン	○		○
6月～7月	1学期期末	第3章 他者とともに生きる 第4章 民主社会の倫理 第5章 民主国家における基本原理	<input type="checkbox"/> ベンサム <input type="checkbox"/> 功利主義 <input type="checkbox"/> 結果説 <input type="checkbox"/> ミル <input type="checkbox"/> 精神的快楽 <input type="checkbox"/> 他者危害 <input type="checkbox"/> ロールズ <input type="checkbox"/> セン <input type="checkbox"/> 機能 <input type="checkbox"/> ケイパビリティ	○	○	○
9月～10月	2学期中間	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格 第2章 日本の政治機構と政治参加	<input type="checkbox"/> 大日本帝国憲法 <input type="checkbox"/> 欽定憲法 <input type="checkbox"/> 統帥権 <input type="checkbox"/> 法律の留保 <input type="checkbox"/> 松本案 <input type="checkbox"/> マッカーサー <input type="checkbox"/> GHQ <input type="checkbox"/> 国民主権 <input type="checkbox"/> 平和主義	○		○
11月～12月	2学期期末	第3章 現代の経済社会 第4章 日本経済の特質と国民生活	<input type="checkbox"/> 財 <input type="checkbox"/> サービス <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 家計 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 政府 <input type="checkbox"/> 資源 <input type="checkbox"/> 配分 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/> 公平性	○	○	○
1月～3月	3学期学年末	第5章 国際政治の動向と課題 第6章 国際経済の動向と課題 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<input type="checkbox"/> 国家 <input type="checkbox"/> 主権 <input type="checkbox"/> 国際政治 <input type="checkbox"/> 国際法 <input type="checkbox"/> 条約 <input type="checkbox"/> 国際慣習法 <input type="checkbox"/> 世界人権宣言 <input type="checkbox"/> 国際人権規約 <input type="checkbox"/> NGO	○	○	○

※ 課題テスト：授業担当者の判断による

※ 実力テスト：授業担当者の判断による

## 観点別評価ルーブリック

教科 公民  
科目 公共

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れたから構想したことを議論する力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

## 4 数学科

### はじめに 数学を学ぶ意義・姿勢

数学は好き嫌いが激しく分かれる教科です。皆さんの中にも数学なんて大嫌いという人もいれば、数学が一番楽しいという人もいます。高校では好きでも嫌いでも数学を学ばなくてはなりません。もちろん、やらなくては卒業できないからです。かといって、卒業するためだけに数学を勉強するのは悲しいものがあります。目的意識と志をもって学習するために、数学を学ぶ意義・意味を考えましょう。

まず挙げられるのが「数学で学んだ内容（数学的知識）が社会に出て（そのまま）役に立つ」ということです。理系の人で将来開発や研究に携わる人は言わずもがなでしょうが、文系の人でも経済学や商学等では様々な計算を行いますし、確率や統計を用いる場面はあります。

次に挙げられるのが「数学の学習で身に着けた能力が社会に出て活かせる」ということでしょう。数学の学習で身に着けられる最大の能力が「**課題解決能力**」です。決して「計算力」や「ひらめき」ではありません。目の前にある課題に対して「課題を分析し、解決への道筋を探し、解決のためのアイデアを見つけ、それを実際に実行・表現する」ことが出来るようになることが、課題解決能力をつけるということです。

皆さんには前者の「数学的知識」はもちろん、後者の「課題解決能力」を身に着けることを大宮北高校で数学を学ぶ意義・意味だと考えてほしいです。

さて、そのために大事なことは何でしょう。最も大切なことは**能動的に学ぶ姿勢**です。池の鯉のように口をパクパクさせてエサ（知識）を放り込んでもらえるのを待っているような学び方はしないでください。**肉食動物のように自ら獲物（知識）を求めて狩りをするような学習姿勢**を持ってほしいと思います。そのためのポイントとなる以下の点を順次説明しましょう。

- (1) 予習      (2) 授業      (3) 復習      (4) 小テスト・定期考査      (5) ノート

#### (1) 予習について

数学が得意になる秘訣は予習することです。予習をしないで授業に臨むのは新鮮であるかもしれませんが危険です。

##### 「予習してもわからないのですが…」

わからなくていいのです。予習して教科書が理解できるなら、それはすごい能力です。わからないところを見つけることが大切。授業ではどうやって説明するのかなという楽しみがあります。

##### 「予習の仕方がわからないのですが…」

その時間にやりそうなところを解くだけでいいのです。わからないときはその近辺の例題や説明を参考にして考えるのです。それでもわからないときはマークしておいて次に進んでいいのです。

##### 「予習する意義があるのですか？」

まず最も大切なこととして、**人に教わったことは忘れます。自ら理解したものは体と頭に身に着きます。**自分で理解できればそれがベストなのです。

さらに、**課題解決能力のなかでも最も重要なのは「初めて直面した問題に対応する能力」**です。予習を通して、初めて見た内容を自力で読み理解する…ということを日々続けることが、この能力の育成に大切です。近未来的に言えば、見たことのない入試問題に対応する力がつきます。将来のことを考えれば、研究者や開発者に問われるのは、誰も成し遂げたことのないこと、誰も創ったことのないものを発想・創造する力です。毎日の少しずつの予習が君たちをどれだけ成長させるか考えてください。

#### (2) 授業について

##### 1. 先生の説明は注意深く聞き、疑問点は必ず質問をする。

「質問なんかしたら自分が分かっていないことが周りにばれちゃうんじゃないか…？」

大丈夫です。自分が分かってなければクラスの半分以上は分かっていません。先生の説明は完璧ではありません。あなたが聞きたい質問の答えはみんなが聞きたいことです。遠慮せずに質問してください。生徒の質問が多いのはいい授業の証拠です。

## 2. 先生の説明の要点は必ずメモをとる。

板書以外の説明もしっかり注意してノートに取るように心掛けましょう。**問題を解く着眼点や発想などは、板書の中でなく、説明の中**にあるかもしれません。

## 3. 問題は必ず自分で解く。

授業中に解く問題は、その授業が理解できたかどうかを試すチャンスです。数学では「**理解する**」だけでなく「**解ける**」「**表現できる**」ことが**大事**です。理解したことを使って問題を解き、答案として表現できるか確認しましょう。

## 4. 基本の解き方をマスターし、様々な解き方を探求する。

解いた問題の答え合わせをして、基本的な解き方を押さえましょう。さらに、別の解法がないか考えることが大切です。教科書に載っている解法がすべてではありません。一つのやり方で満足するのではなく、**別の解法を考える習慣をつけることで、問題解決能力は何倍にもなります。**

### (3) 復習について

中学校では、授業時間中さえしっかり集中していれば、授業についていくのにそれほど苦労しなかったかもしれません。しかし、覚えるべきことの質や量がレベルアップした高校の学習内容を完璧に理解するためには、授業だけでは不十分です。その日の授業内容を理解できたかしっかり確認しておきましょう。また高校の授業の進むスピードは、中学校とは段違いです。そのため、ほんの少しの「わからないこと」が、あっと言う間に手のつけようがないほど溜まってしまいます。**疑問点は早めに解決**しておきましょう。

1. 宿題は必ず自分の力で取り組む。
2. 授業で扱わなかった問題にも挑戦する。問題集は**検査前**だけでなく**普段から**取り組んでおく。
3. 解けない問題にも教科書・授業ノート・参考書で調べ、粘り強く取り組む。
4. それでもわからないときは、周りの友達に聞いてみよう。友達に聞くことで、質問した人も質問された人も理解が深まります。
5. どうしてもわからないときは、どこが、何がわからないのかを明らかにして、先生に質問しよう。

### (4) 小テスト・定期考査

- ・ 大宮北高校では、教科書のまとまった単元、章が終わるときに確認のテストを行います。その単元、章の基本事項、標準的な問題が出題されるテストです。点数を気にするのではなく、自分の理解度を確認し、十分に理解している項目はさらに発展的な内容に、理解が不十分な項目は後回しにせず即座に基本から取り組みましょう。
- ・ 高校の定期考査は教科・科目数も多く、とても一夜漬けでは通用しません。数学も含め、どの教科も継続した日々の学習、家庭での予習、復習が欠かせません。定期考査前には、基本的には授業の理解を中心にして、教科書とノート、問題集を使って徹底復習しましょう。

高校で初めての定期考査は、何をすればいいのか不安な人も多いでしょう。  
数学の小テスト・定期考査の出題内容は、簡単に言うと次のようになります。

- 教科書の練習，チャートの基本例題コンパス1・2にあるような「基本問題」
- 教科書の応用例題や章末問題A，チャートの基本例題コンパス3にあるような「標準問題」
- 教科書の章末問題B，チャートの重要例題コンパス4・EXERCISESにあるような「応用問題」

基本的にはこれらを，教科書と授業ノート，参考書を利用して，最初からもう一度自分の力で解くことが最低必要になります。

解き方を暗記したり，模範解答を綺麗にノートに写したりして勉強した気になって終わるのではなく，**とにかく「考える」「答案を完成させる」ことが大切**です。代表的・典型的な例題は，解法パターンの習得が必要ですが，それでもすぐに模範解答をみるのではなく，時には時間をかけて考え，悩むことが必要です。**自分で考えてこそ**，模範解答を見たとき，納得し・解法に感心し，あるいは気づかなかったポイントが強く印象づけられるというものです。

実際に手を動かし・考え，その後で解法を確認する。学問に王道なし。千里の道も一歩から。継続は力なり。地道な努力を継続することこそが次の勝利へとつながるのです。

## <事前対策のチェック&アドバイス>

**2週間前Check** <計画を立て，範囲内のポイントを徹底理解！>

テスト範囲を確認して，計画を立てる。

試験範囲をもれなく対策するためには，計画的に勉強することが何よりも大切です。

知識にもれがないよう教科書・授業ノートを見直す。

押さえるべきポイントや知識はすべて頭に入れましょう。

定理・公式の使い方をチェックする。

定理・公式はただ覚えるだけでは点が取れません。理解し，基本問題を解いて使い方を確認しておきましょう。

**1週間前Check** <問題を解ける状態にしておこう！>

教科書，問題集の問題を解く。

知識は，実際に問題が解けてはじめてテストで通用します。問題演習には徹底的に取り組みましょう。

課題プリントも確認し，問題を解いておく。

以前，間違えたことのある問題は必ず解き直す。

高校の定期テストでは問題を解く過程も採点の対象となるので，解法までしっかり確認しておきましょう。

教科書の章末問題，問題集の応用問題にも取り組む。

**前日Check** <直前は最終チェック！>

解き方に不安のある問題はないか，再チェックする。

定理・公式などをもう一度確かめておく。

## (5) ノートについて

数学Ⅰ・数学Aそれぞれ少なくとも「予習・授業ノート」「問題演習ノート」「誤答訂正ノート」の3冊のノートを用意して下さい。担当の先生によっては、iPadを使用することもあります。授業の初回ガイダンスで指示がありますのでよく聞いておいてください。

「予習・授業ノート」：日々の予習や授業で使います。

- ・予習の段階では、新しい言葉(定義)の確認、例題などを自力で取り組み、不明な点を明らかにしておきます。
- ・授業では、
  - ①章やタイトルを記入し、復習の時に見やすいノートを心がける。
  - ②式変形などは途中式を省略せず、後で見直したときに分かるようにしておく。
  - ③口頭での説明も含め、大切なポイントは、枠で囲んだり蛍光ペンで色づけしたり目立つようにする。
  - ④図やグラフは、大きめに丁寧に描く。問題で問われている状況がイメージしやすくなります。

「問題演習ノート」：「基本と演習テーマ」「チャート式」の問題等を解きます。

- ・例として、㉑：自力で解けた、㉒：ヒントを見て解けた、㉓：解答を見て理解した、㉔：解答を見て不明などのチェックをつけ、㉕～㉗は必ず解き直す。試験までに3回は繰り返すとよい。
- ・夏休みなどの演習課題を解く。

「誤答訂正ノート」：小テストや定期考査、課題テスト、実力テストの復習に用います。

- ・テストが終わって安心してはいけません。テスト勉強は、実は答案用紙が返却された後こそが本番と言ってもいいくらいなのです。その範囲内の最重要事項ばかりを凝縮して作られるのが試験問題です。その試験で間違えた問題、減点された問題を徹底的に解き直すことは学力を向上させるために極めて効果的です。このことは、これから取り組むすべての試験で一番大切なことです。

- ①問題用紙、解答用紙を貼る。
- ②間違ったり、減点されたりした問題は、模範解答を参考に**解き直し**、解答の流れを整理する。
- ③誤答の原因や、**解法のポイント**をわかりやすくまとめる。
- ④**類題**を、問題集や教科書から探し解いてみる。
- ⑤最後に、テストの結果や普段の学習の仕方について**反省点や改善点**などをまとめる。

- ・自分がどこでつまづいたのか、どうして間違えたのかが一目でわかり、復習するのにとても便利です。このノートは後で何度も見返しましょう。返却された答案用紙は、これから成績アップするために何をすればいいのかを教えてくれる道しるべであり、向上への宝の山です！

## (6) 最後に

### <数学の2つの勉強法>

数学は積み上げていく学問なのでコツコツやっていくのが普通でしょう。定期テストくらいはこれで対応できます。しかし、理系の入試、さらに理工系で数学を応用する場合、これでは不十分です。必要なのは2つ、

### 「熱中する時間」「コツコツと学ぶ時間」

何か面白いことがあったらそれに熱中して考えてみましょう。その分野が得意になるはずですが。苦手な分野があったら8時間そこだけをやってみましょう。何かが見えてきます。中学の教科書を丸一日かけて見直すのもいいかもしれません。**コツコツ、時に熱中!**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
数学Ⅰ、数学A		5	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」		
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、簡潔に処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。				
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅰ」第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式  「数学Ⅰ」第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値と変化	<input type="checkbox"/> 整式の加法と減法 <input type="checkbox"/> 整式の乗法 <input type="checkbox"/> 因数分解 <input type="checkbox"/> 実数 <input type="checkbox"/> 根号を含む式の計算 <input type="checkbox"/> 不等式の性質 <input type="checkbox"/> 1次不等式 <input type="checkbox"/> 絶対値を含む方程式・不等式 <input type="checkbox"/> 関数とグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数の最大・最小 <input type="checkbox"/> 2次関数の決定	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 2次方程式と2次不等式  「数学Ⅰ」第2章 集合と命題  「数学A」第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	<input type="checkbox"/> 2次方程式 <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフとx軸の位置関係 <input type="checkbox"/> 2次不等式 <input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> 命題と条件 <input type="checkbox"/> 命題と証明 <input type="checkbox"/> 集合の要素の個数 <input type="checkbox"/> 場合の数 <input type="checkbox"/> 順列 <input type="checkbox"/> 組合せ	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2節 確率  「数学Ⅰ」第5章 データの分析  「数学A」第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	<input type="checkbox"/> 事象と確率 <input type="checkbox"/> 確率の基本性質 <input type="checkbox"/> 独立な試行と確率 <input type="checkbox"/> 条件付き確率 <input type="checkbox"/> 期待値 <input type="checkbox"/> データの整理 <input type="checkbox"/> データの代表値 <input type="checkbox"/> データの散らばりと四分位数 <input type="checkbox"/> 分散と標準偏差 <input type="checkbox"/> 2つの変量の間関係 <input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方 <input type="checkbox"/> 三角形の辺の比 <input type="checkbox"/> 三角形の外心・内心・重心 <input type="checkbox"/> チェバの定理・メネラウスの定理 <input type="checkbox"/> 円に内接する四角形 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 作図 <input type="checkbox"/> 直線と平面 <input type="checkbox"/> 空間図形と多面体	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学Ⅰ」第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用  「数学Ⅱ」第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明  「数学Ⅱ」第2章 複素数と方程式	<input type="checkbox"/> 三角比 <input type="checkbox"/> 三角比の相互関係 <input type="checkbox"/> 三角比の拡張 <input type="checkbox"/> 正弦定理 <input type="checkbox"/> 余弦定理 <input type="checkbox"/> 正弦定理と余弦定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角形の面積 <input type="checkbox"/> 空間図形への応用  <input type="checkbox"/> 3次式の展開と因数分解 <input type="checkbox"/> 二項定理 <input type="checkbox"/> 多項式の割り算 <input type="checkbox"/> 分数式とその計算 <input type="checkbox"/> 恒等式 <input type="checkbox"/> 等式の証明 <input type="checkbox"/> 不等式の証明  <input type="checkbox"/> 複素数とその計算 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係 <input type="checkbox"/> 剰余の定理と因数定理 <input type="checkbox"/> 高次方程式	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学Ⅱ」第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域  「数学Ⅱ」第4章 三角関数 第1節 三角関数	<input type="checkbox"/> 直線上の点 <input type="checkbox"/> 平面上の点 <input type="checkbox"/> 直線の方程式 <input type="checkbox"/> 2直線の関係 <input type="checkbox"/> 円の方程式 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 軌跡と方程式 <input type="checkbox"/> 不等式の表す領域  <input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ <input type="checkbox"/> 三角関数の性質 <input type="checkbox"/> 三角関数の応用	○	○	○

※ 課題テスト：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
理数数学 I		6	数学 I、数学 A、数学 II [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」		
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、簡潔に処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。				
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学 I」第 1 章 数と式 第 1 節 式の計算 第 2 節 実数 第 3 節 1 次不等式  「数学 I」第 3 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ 第 2 節 2 次関数の値と変化	<input type="checkbox"/> 整式の加法と減法 <input type="checkbox"/> 整式の乗法 <input type="checkbox"/> 因数分解 <input type="checkbox"/> 実数 <input type="checkbox"/> 根号を含む式の計算 <input type="checkbox"/> 不等式の性質 <input type="checkbox"/> 1 次不等式 <input type="checkbox"/> 絶対値を含む方程式・不等式 <input type="checkbox"/> 関数とグラフ <input type="checkbox"/> 2 次関数のグラフ <input type="checkbox"/> 2 次関数の最大・最小 <input type="checkbox"/> 2 次関数の決定	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式  「数学 I」第 2 章 集合と命題  「数学 A」第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数	<input type="checkbox"/> 2 次方程式 <input type="checkbox"/> 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 <input type="checkbox"/> 2 次不等式 <input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> 命題と条件 <input type="checkbox"/> 命題と証明 <input type="checkbox"/> 集合の要素の個数 <input type="checkbox"/> 場合の数 <input type="checkbox"/> 順列 <input type="checkbox"/> 組合せ	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第 2 節 確率  「数学 I」第 5 章 データの分析  「数学 A」第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形 第 2 節 空間図形	<input type="checkbox"/> 事象と確率 <input type="checkbox"/> 確率の基本性質 <input type="checkbox"/> 独立な試行と確率 <input type="checkbox"/> 条件付き確率 <input type="checkbox"/> 期待値 <input type="checkbox"/> データの整理 <input type="checkbox"/> データの代表値 <input type="checkbox"/> データの散らばりと四分位数 <input type="checkbox"/> 分散と標準偏差 <input type="checkbox"/> 2 つの変量の間関係 <input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方 <input type="checkbox"/> 三角形の辺の比 <input type="checkbox"/> 三角形の外心・内心・重心 <input type="checkbox"/> チェバの定理・メネラウスの定理 <input type="checkbox"/> 円に内接する四角形 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2 つの円 <input type="checkbox"/> 作図 <input type="checkbox"/> 直線と平面 <input type="checkbox"/> 空間図形と多面体	○	○	○

11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学Ⅰ」第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用  「数学Ⅱ」第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明  「数学Ⅱ」第2章 複素数と方程式  「数学Ⅱ」第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	<input type="checkbox"/> 三角比 <input type="checkbox"/> 三角比の相互関係 <input type="checkbox"/> 三角比の拡張 <input type="checkbox"/> 正弦定理 <input type="checkbox"/> 余弦定理 <input type="checkbox"/> 正弦定理と余弦定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角形の面積 <input type="checkbox"/> 空間図形への応用 <input type="checkbox"/> 3次式の展開と因数分解 <input type="checkbox"/> 二項定理 <input type="checkbox"/> 多項式の割り算 <input type="checkbox"/> 分数式とその計算 <input type="checkbox"/> 恒等式 <input type="checkbox"/> 等式の証明 <input type="checkbox"/> 不等式の証明 <input type="checkbox"/> 複素数とその計算 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係 <input type="checkbox"/> 剰余の定理と因数定理 <input type="checkbox"/> 高次方程式 <input type="checkbox"/> 直線上の点 <input type="checkbox"/> 平面上の点 <input type="checkbox"/> 直線の方程式 <input type="checkbox"/> 2直線の関係 <input type="checkbox"/> 円の方程式 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 軌跡と方程式 <input type="checkbox"/> 不等式の表す領域	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学Ⅱ」第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	<input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ <input type="checkbox"/> 三角関数の性質 <input type="checkbox"/> 三角関数の応用 <input type="checkbox"/> 加法定理 <input type="checkbox"/> 加法定理の応用	○	○	○

※ 課題テスト：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 単元テスト：単元の内容をもとに出題する。

※ 実力テスト：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

## 観点別評価ルーブリック

教科 数学  
科目 数学 I

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<p>・数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>・事実を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	<p>章末テスト 課題調査 定期調査 等</p>	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p>
思考・判断・表現	<p>数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析において、事実を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<p>章末テスト 課題調査 定期調査 等</p> <p>提出物 等</p>	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</p>
学習に主体的に取り組む態度	<p>・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>	<p>章末テスト 課題調査 定期調査 等</p> <p>提出物 等</p>	<p>課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。</p>	<p>課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。</p>	<p>課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。</p>

## 観点別評価ルーブリック

教科 数学  
科目 数学A

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</li> <li>事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。</li> </ul>	<p>章末テスト 課題調査 定期調査 等</p>	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p>
思考・判断・表現	<p>場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<p>章末テスト 課題調査 定期調査 等 提出物 等</p>	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。 自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</li> </ul>	<p>章末テスト 課題調査 定期調査 等 提出物 等</p>	<p>課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。</p>	<p>課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。</p>	<p>課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。</p>

## 5 理科

### ◆ 理科という教科

「理科」は、自然のなかのしくみを考えるための科目です。私たちの生きているこの世界、宇宙、地球、物質、生物、自然現象について学習していきます。「理科」は「科学」とも呼ばれ、人類は自然のしくみを解き明かし、科学技術を発展させ、文明を作り上げてきました。

科学の学習では、まず、自然のなかにある「事物・現象」に関心をもち、「なぜ？ どうして？」という問いに気づき、その答えを観察や実験によって追求し、見つけ出した答えの先には更なる問いが待っているということを理解します。その後、科学と人間の関わり合いに目をむけ、自然とのつき合い方を考えます。

### ◆ 各科目

#### <物理基礎・物理>

「物理」は、自然現象がどのような原理、法則で生じるのかを追求する科目です。「力学」や「熱力学」、「気体分子運動論」、「波の性質」、「電磁気学」、「原子物理」等を学び、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、習得した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力を身につけられるようにします。

#### <化学基礎・化学>

「化学」は、ものを物質という観点から考える科目です。「物質の状態」や「物質の変化と平衡」、「無機物質」、「有機化合物」、「高分子化合物」等を学び、基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解することを目指します。そして、物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身につけられるようにします。1年生での既習事項を復習しながら新しい知識を学習することを強くお勧めします。

#### <生物基礎・生物>

「生物」は、この地球に存在している生物の共通性と多様性を考える科目です。「生物の特徴」や「生命現象」、「生物の環境応答」、「生態系」等を学び、生物の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、生物としての自分自身を理解し、自然界を構成する一員として、身の回りの自然環境を生物の多様性と生態系を通して考えられるようにします。

#### <地学基礎>

「地学基礎」は、地球や宇宙を考える科目です。「地球」や「地球の歴史」、「大気と海洋」、「宇宙の構造」等を学び、地球を基本とする自然科学の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを目指します。そして、習得した見方、考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行い、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質、能力を身につけられるようにします。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
化学基礎	2	改訂版 化学基礎 (数研出版)	2026 セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社)			
【到達目標】	① 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
【学習上の留意点】	① 復習を必ず行い、わからないところを残さないようにしましょう。 ② 物質質量 (mol) の概念や計算を理解できるようにしましょう。 ③ 一度でできた物質の化学式は書けるようにしましょう。					
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	1-1. 物質の構成 ① 純物質と混合物 ② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動 1-2. 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表	<input type="checkbox"/> 純物質と混合物 <input type="checkbox"/> 物質の分離・精製 <input type="checkbox"/> 原子と元素 <input type="checkbox"/> 単体と化合物 <input type="checkbox"/> 同素体 <input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 拡散と粒子の熱運動 <input type="checkbox"/> 物質の三態と熱運動 <input type="checkbox"/> 状態変化 <input type="checkbox"/> 原子の構造 <input type="checkbox"/> 同位体 <input type="checkbox"/> 電子配置 <input type="checkbox"/> 価電子 <input type="checkbox"/> イオン <input type="checkbox"/> イオン化エネルギーと電子親和力 <input type="checkbox"/> 周期表 <input type="checkbox"/> 元素の分類 <input type="checkbox"/> 同族元素	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	1-3. 粒子の結合 ① イオン結合とイオン結晶 ② 共有結合と分子 ③ 配位結合 ④ 分子間にはたらく力 ⑤ 高分子化合物 ⑥ 共有結合の結晶 ⑦ 金属結合と金属結晶	<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結晶 <input type="checkbox"/> 電子式と構造式 <input type="checkbox"/> 分子の形 <input type="checkbox"/> 配位結合 <input type="checkbox"/> 錯イオン <input type="checkbox"/> 高分子化合物 <input type="checkbox"/> 電気陰性度 <input type="checkbox"/> 結合の極性 <input type="checkbox"/> 分子間力 <input type="checkbox"/> 分子結晶 <input type="checkbox"/> 共有結合の結晶 <input type="checkbox"/> 金属結合 <input type="checkbox"/> 金属の利用 <input type="checkbox"/> 合金の利用	○	○	○

9月 ～ 10月	2学期 中間	2-1. 物質と化学反応式 ① 原子量・分子量・式量 ② 物質 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応式と物質	<input type="checkbox"/> 原子の相対質量 <input type="checkbox"/> 原子量 <input type="checkbox"/> 分子量・式量 <input type="checkbox"/> 物質と粒子の数 <input type="checkbox"/> 物質と質量 <input type="checkbox"/> 物質と気体の体積 <input type="checkbox"/> 溶液の濃度 <input type="checkbox"/> 化学反応式 <input type="checkbox"/> イオンを含む反応式 <input type="checkbox"/> 化学反応式が表す量的関係 <input type="checkbox"/> 化学の基礎法則	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	2-2. 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定	<input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の価数, 強弱 <input type="checkbox"/> 水素イオン濃度とpH <input type="checkbox"/> pH指示薬とpHの測定 <input type="checkbox"/> 中和反応 <input type="checkbox"/> 塩 <input type="checkbox"/> 塩と酸・塩基の反応 <input type="checkbox"/> 中和反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 中和滴定 <input type="checkbox"/> 滴定曲線	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	2-3. 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用 ⑤ 電池	<input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義 <input type="checkbox"/> 酸化・還元と酸化数 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤の反応 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向 <input type="checkbox"/> イオン化傾向と金属の反応性 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応とエネルギー <input type="checkbox"/> 電池のしくみ <input type="checkbox"/> 実用電池 <input type="checkbox"/> 金属の製錬	○	○	○

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
生物基礎		2	生物基礎 数研出版	リードLightノート 生物基礎 リードα 生物基礎		
【到達目標】		① 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ② データの読み方を身に付ける。 ③ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。				
【学習上の留意点】		① 毎学期、課題もしくは実験レポートを課す。 ② 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。 ③ 第4章 第3節以降は2学年『サイエンス生物』で行う。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	予備学習1 顕微鏡の基本操作 第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴	<input type="checkbox"/> 生物の多様性と共通性 <input type="checkbox"/> エネルギーと代謝	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	予備学習2 ミクロメーターによる測定 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<input type="checkbox"/> 呼吸と光合成 <input type="checkbox"/> 遺伝情報とDNA	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	予備学習3 体細胞分裂の観察 第2章 遺伝子とそのはたらき	<input type="checkbox"/> 遺伝情報の複製と分配 <input type="checkbox"/> 遺伝情報の発現	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2章 遺伝子とそのはたらき 第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 予備学習4 血液凝固反応	<input type="checkbox"/> 遺伝情報の発現 <input type="checkbox"/> 体内での情報伝達と調達 <input type="checkbox"/> 体内環境の維持のしくみ	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 ヒトの体内環境の維持 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系	<input type="checkbox"/> 免疫のはたらき <input type="checkbox"/> 植生と遷移 <input type="checkbox"/> 植生の分布とバイオーム	○	○	○

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数化学		2	改訂版 化学基礎 (数研出版)	2026 セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社)		
【到達目標】		② 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に着ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
【学習上の留意点】		① 復習を必ず行い、わからないところを残さないようにしましょう。 ② 物質質量 (mol) の概念や計算を理解できるようにしましょう。 ③ 一度でできた物質の化学式は書けるようにしましょう。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	1-1. 物質の構成 ① 純物質と混合物 ② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動 1-2. 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表	<input type="checkbox"/> 純物質と混合物 <input type="checkbox"/> 物質の分離・精製 <input type="checkbox"/> 原子と元素 <input type="checkbox"/> 単体と化合物 <input type="checkbox"/> 同素体 <input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 拡散と粒子の熱運動 <input type="checkbox"/> 物質の三態と熱運動 <input type="checkbox"/> 状態変化 <input type="checkbox"/> 原子の構造 <input type="checkbox"/> 同位体 <input type="checkbox"/> 電子配置 <input type="checkbox"/> 価電子 <input type="checkbox"/> イオン <input type="checkbox"/> イオン化エネルギーと電子親和力 <input type="checkbox"/> 周期表 <input type="checkbox"/> 元素の分類 <input type="checkbox"/> 同族元素	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	1-3. 粒子の結合 ① イオン結合とイオン結晶 ② 共有結合と分子 ③ 配位結合 ④ 分子間にはたらく力 ⑤ 高分子化合物 ⑥ 共有結合の結晶 ⑦ 金属結合と金属結晶	<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結晶 <input type="checkbox"/> 電子式と構造式 <input type="checkbox"/> 分子の形 <input type="checkbox"/> 配位結合 <input type="checkbox"/> 錯イオン <input type="checkbox"/> 高分子化合物 <input type="checkbox"/> 電気陰性度 <input type="checkbox"/> 結合の極性 <input type="checkbox"/> 分子間力 <input type="checkbox"/> 分子結晶 <input type="checkbox"/> 共有結合の結晶 <input type="checkbox"/> 金属結合 <input type="checkbox"/> 金属の利用 <input type="checkbox"/> 合金の利用	○	○	○

9月 ～ 10月	2学期 中間	2-1. 物質と化学反応式 ① 原子量・分子量・式量 ② 物質 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応式と物質	<input type="checkbox"/> 原子の相対質量 <input type="checkbox"/> 原子量 <input type="checkbox"/> 分子量・式量 <input type="checkbox"/> 物質と粒子の数 <input type="checkbox"/> 物質と質量 <input type="checkbox"/> 物質と気体の体積 <input type="checkbox"/> 溶液の濃度 <input type="checkbox"/> 化学反応式 <input type="checkbox"/> イオンを含む反応式 <input type="checkbox"/> 化学反応式が表す量的関係 <input type="checkbox"/> 化学の基礎法則	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	2-2. 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定	<input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の価数, 強弱 <input type="checkbox"/> 水素イオン濃度とpH <input type="checkbox"/> pH指示薬とpHの測定 <input type="checkbox"/> 中和反応 <input type="checkbox"/> 塩 <input type="checkbox"/> 塩と酸・塩基の反応 <input type="checkbox"/> 中和反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 中和滴定 <input type="checkbox"/> 滴定曲線	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	2-3. 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用 ⑤ 電池	<input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義 <input type="checkbox"/> 酸化・還元と酸化数 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤の反応 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向 <input type="checkbox"/> イオン化傾向と金属の反応性 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応とエネルギー <input type="checkbox"/> 電池のしくみ <input type="checkbox"/> 実用電池 <input type="checkbox"/> 金属の製錬	○	○	○

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
SS理数生物		2	生物基礎 生物 数研出版	リードα生物基礎+生物 数研出版		
【到達目標】		③ 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ④ 仮説の設定等の実験計画および実験データなどを理解できるようにする。 ⑤ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。				
【学習上の留意点】		① 生物基礎と生物の重複分野は、両方の内容を学習する。 ② 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に 学習に取 り組む態 度
4月 ～ 5月	1学期 中間	〈生物基礎〉第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 〈生物〉第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞	<input type="checkbox"/> 生物の共通性としての細胞 <input type="checkbox"/> 生物の多様性・共通性 <input type="checkbox"/> 代謝とエネルギー <input type="checkbox"/> 細胞を構成する物質 <input type="checkbox"/> 真核細胞の構造と機能	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	〈生物基礎〉第1章 生物の特徴 第3節 呼吸と光合成 〈生物〉第2章 細胞と分子 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタン パク質	<input type="checkbox"/> 呼吸 <input type="checkbox"/> 光合成 エネルギーの流れ <input type="checkbox"/> 酵素 <input type="checkbox"/> タンパク質の構造 <input type="checkbox"/> 酵素のはたらき <input type="checkbox"/> 酵素反応の調節と反応条件	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	〈生物基礎〉 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 〈生物〉 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製	<input type="checkbox"/> DNAの構造 <input type="checkbox"/> 遺伝情報の複製 <input type="checkbox"/> 遺伝情報の分配	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	〈生物基礎〉 第2章 遺伝子とそのはたらき 第3節 遺伝情報の発現 〈生物〉 第4章 遺伝情報の発現と発生 第2節 遺伝情報の発現	<input type="checkbox"/> 遺伝情報とその発現 <input type="checkbox"/> 転写とスプライシング <input type="checkbox"/> 翻訳 <input type="checkbox"/> 真核細胞と原核細胞のタンパ ク質合成の違い	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	〈生物基礎〉 第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ	<input type="checkbox"/> 神経系による情報伝達と調節 <input type="checkbox"/> 内分泌系による情報の伝達と 調節 <input type="checkbox"/> 血糖濃度の調節のしくみ <input type="checkbox"/> 血液の循環を維持するしくみ	○	○	○

※ 課題テスト： なし

※ 実力テスト： なし

## 観点別評価ルーブリック

理科  
SS理数化学、化学基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>・物質の構成・構成粒子、粒子の結合、物質量と化学反応式、酸と塩基の反応、酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</p>	<p>小テスト 定期考査 行動観察等</p>	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる</p>	<p>該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。</p>
思考・判断・表現	<p>・物質の構成、物質の変化とその利用について、それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。</p> <p>・物質とその変化を対象に、概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり、情報収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。</p>	<p>小テスト レポート 定期考査 行動観察等</p>	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体的に取り組む態度	<p>・物質とその変化について対して主体的に関わり、化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。</p> <p>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。</p>	<p>再テスト テスト直し レポート 定期考査 行動観察等</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の意欲・行動が標準的である。</p>	<p>課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。</p>

## 観点別評価ルーブリック

教科  
科目 理科  
生物基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p>	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	<p>・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p>	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習する態度を取り組	<p>・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。</p>	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

## 観点別評価ルーブリック

教科 理科  
科目 SS生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習態度を取り組	・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。	①定期考査等 ②レポート等 ③課題等	① 得点率が良好 ②③ 提出・内容が良好	① 得点率が良 ②③ 提出できている	① 得点率が不十分 ②③ 未提出

## 6 保健体育科

### 体育

#### (1) 高等学校で『体育』を学ぶ意義

高校教育の中で、体育に課せられた使命を考えてみよう。

現代は、IT機器の発達と普及、医学の進歩、機械化による労力の軽減、更に余暇においても機械抜きでは楽しめない時代である。情報があふれ、人と人とのコミュニケーションも大きく変化し、精神的緊張を強いる社会の中での生活は、人々に多くのストレスを与える。このような時代では、身体と精神を逞しく維持していかなければ、健康に生きていけない。なぜならば、人間らしさは機械の力にだけ頼ってはいられないからだ。有意義な人生を送るためには、健全な精神と堅強な身体とを兼ね備えることが重要となる。スポーツの重要性はまさにここで発揮され、成長期の最終段階における高校期に体育を学ぶことにより、その充実と発達が期待できる。

高等学校における体育の授業において理論や内容は、単なる知識の獲得だけではない。自らの生活の中に取り入れ、生涯にわたり活用することによって、初めてその体育授業が生かされてくる。

本校では、君達がより積極的に授業に取り組み、高度なスポーツの経験と科学的な運動(スポーツ)理論を学び、正しい運動方法により、生涯にわたって継続してスポーツを実践できる知識と技能を獲得することを目指している。

#### (2) 体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

#### (3) 1学年の学習について

##### 1. 指導目標

- ・ 各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正・協力・責任等の態度と積極的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等も学ぶ。

##### 2. 評価について

授業態度(積極的な活動、体力の向上・技能の習得)、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループの学習カードの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の3つの観点から総合的に評価する。

##### 【知識・技能】

- ・ 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている
- ・ 運動の技能の構造と運動の学び方を理解している。
- ・ 各競技のルール、練習方法、戦術について理解をしている。

### 【思考・判断・表現】

- ・自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考し判断している。
- ・課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

### 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。
- ・礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片づけ、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・健康や安全に留意して、自ら運動をしようとしている。

## 3. 授業について

1) 単位数 普通科 3 単位・理数科 2 単位

2) 授業内容について

#### ① 時間厳守

- ・授業には定刻前に余裕を持って集合する。集合場所については体育委員が事前に教科担当に確認し、クラスの生徒に連絡をする。
- ・特に 1 時限目に授業がある時は、朝の SHR 前に更衣をすませ授業開始時刻に遅れないようにする。

#### ② 出席重視

- ・体育は実技科目なので特に出席を重視する。授業に対する姿勢・態度を重視するので授業に前向きに取り組むことが重要である。
- ・やむを得ず見学をする場合は、授業の 1 時間前に教科担当に報告し、指示を受ける。傷病等で長期にわたって見学をする場合は、診断書等の提出をする。

#### ③ 体育着等の保管

- ・体育で使用するものにはすべて記名をし、各自の責任において保管すること。常に清潔に保つことにも留意する。特に体育館シューズ・シューズ袋には大きな字で記名し、他の生徒のシューズと取り違えることのないようにする。

#### ④ 大きな声で体操・挨拶

- ・授業時の挨拶は大きな声でし、体操・補強等の号令も全員で大きな声でかける。

#### ⑤ 貴重品の管理

- ・体育授業時に教室や更衣室で更衣をする際には各自の貴重品は個人ロッカーに入れ、各自で管理すること。

#### ⑥ 安全確認

- ・用具の出し入れは、自ら進んで行き、安全に活動できるように留意する。自分の健康管理、安全はもとより、周囲のものの安全にも心がける。

3) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

4) 柔道着・水着・長袖 T シャツの販売について

購入案内文書の配布、申込み、販売については以下の通りである。

	文書の配布	申込み	販売
水着	5 月上旬	5 月中旬	5 月下旬
柔道着	9 月上旬	無し	9 月上旬
長袖 T シャツ	9 月下旬	10 月上旬	10 月下旬

販売場所は本校体育館入り口で行う。販売当日、代金(おつりのないように)を持参し受け取る。

※ 柔道は男子の体育授業で履修する。使用できる柔道着を持っている場合を除き、男子は全員購入する。

※ 水泳は男女とも1・2学年で履修する。中学校の体育等で使用したスクール水着(黒・紺系色)・水泳帽を所持されている場合を除き、全員が購入する。

※ 長袖Tシャツ(ネーム刺繍有)は希望者を対象に販売する。

5) その他

- ・4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、ハーフパンツ。
- ・禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類の着用。
- ・運動制限や健康上の不安等がある場合、必ず担当教諭に相談すること。

(4) 学習内容

領域	領域の内容・単元	第1学年		第2学年		第3学年	備考	
		男	女	男	女	男女共修		
体育理論		●	●	○	○	○		
体づくり	体力を高める運動(持久走)	●	●	○	○	○		
	体をほぐす運動	●	●	○	○	○		
陸上競技	長距離走	●	●	○	○	○		
	三種競技(走・跳・投)	●	●			□※1		
水泳	各種泳法	●	●	○	○		※2	
	遠泳・競泳(複数の泳法)	●	●	○	○	□※1	※3	
武道	柔道	●		○		□※1		
器械運動	マット運動		●	○			※4	
	跳び箱運動		●	○		□※1		
	鉄棒運動		●	○				
球技	ゴール型	バスケットボール		●	○		□※1	
		ハンドボール	●			○	□※1	
		サッカー	●	●			□※1	
	ネット型	バレーボール			○	○	□※1	
		テニス					□※1	
		バドミントン					□※1	
		卓球					□※1	
	ベースボール型	ソフトボール					□※1	

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

(5) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名		副教材等		
体育		普通科3 理数科2	新高等保健体育				
【到達目標】		① 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能の習得と、体力の向上が見られる。 ② 公正・協力・責任等の態度と積極的に運動する能力と態度が身につく。 ③ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 ④ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等を習得する。					
【学習上の留意点】		① 体育は実技教科なので、出席を特に重視している。 ② やむを得ず見学をする場合には、見学の理由等を記入し、授業の1時間前に教科担当に報告をし、指示を受けること。 ③ 授業には定刻前に余裕を持って集合する。集合場所については体育委員が事前に教科担当に確認し、クラスの生徒に連絡をする。					
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	男子 ・体育理論 (スポーツ発祥と成立、スポーツ文化の発展と現代社会) ・体づくり運動 (体力を高める運動) ・陸上競技(持久走)1500m	女子 ・体育理論 (スポーツ発祥と成立、スポーツ文化の発展と現代社会) ・体づくり運動 (体力を高める運動) ・陸上競技(持久走)1000m		○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	・陸上競技(三種競技) 走・跳・投 ・水泳(クロール・平泳ぎ) 距離泳・時間泳	・器械運動(マット運動) ・水泳(クロール・平泳ぎ) 距離泳・時間泳		○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	・体づくり運動 (体ほぐし運動) ・球技(ハンドボール)	・体づくり運動 (体ほぐし運動) ・陸上競技(三種競技) 走・跳・投		○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	・体育理論 (オリンピック・パラリンピックと国際社会、スポーツ経済効果とスポーツ産業) ・陸上競技(長距離走)約5km ・武道(柔道)	・体育理論 (オリンピック・パラリンピックと国際社会、スポーツ経済効果とスポーツ産業) ・陸上競技(長距離走)約4km ・球技(サッカー)		○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	・体育理論 (スポーツに求められる高潔さ、持続可能性からみたスポーツと環境) ・体づくり運動 (体力と高める運動) ・球技(サッカー)	・体育理論 (スポーツに求められる高潔さ、持続可能性からみたスポーツと環境) ・体づくり運動 (体ほぐしの運動) ・球技(バスケットボール)		○	○	○

# 保健

## (1) 高等学校で『保健』を学ぶ意義

大学受験の小論文のテーマに「保健」・「環境」・「医療問題」がテーマになることはあっても受験科目に「保健」は存在しない。何故、高校のカリキュラムに「保健」があるのだろうか。

情報化社会は我々に十分すぎる情報を提供するとともに、大きなストレスを与える。技術の進歩は生活を豊にしてくれるとともに、人と人との直接的なコミュニケーションを阻害する。医学や医療の進歩は我々の平均寿命は世界トップに押し上げ、価値観の多様化による少子化と重なり、超高齢化社会は目の前に迫っている。「ネット異存社会」・「ストレス社会」・「超高齢化社会」・「自然環境の崩壊」の中で我々は生活している。一生この世界で生きていかなければならない。

更に、法律の改正により選挙権は18才以上になった。高校1・2年次に「医療保険制度・介護保険・公衆衛生等の我が国における社会構造」について学び、「環境問題・医療問題・社会問題等の本質は何か」を考えることは有権者の義務であり責任である。

保健の授業で学ぶ内容を知識としてとらえるだけではなく、自分の問題として解決しようとする心と態度を育てることが本校の「保健」授業のテーマであり、高等学校で『保健』を学ぶ意義である。

## (2) 保健の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の育成
2. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、正しく判断し行動できる能力の育成

## (3) 1学年の学習について

### 1. 指導目標

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

### 2. 評価について

各学期の期末考査の得点を基準とし、以下の項目を加え総合的に評価する。

- 授業における提出物・レポート・課題・ノートの内容
- 長期休業中におけるフィールドワークレポートの内容
- 個人やグループの課題研究の内容
- 様々なレポートや研究活動の発表の内容やそれに対する評価
- 応急手当及び心肺蘇生法の技能

(4) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
保健		1	新高等保健体育 (大修館書店)			
【到達目標】		我が国の疾病構造や社会の変化に対応して健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。				
【学習上の留意点】		① あらゆる社会的課題を自分事として捉え、主体的に授業へ参加すること。 ② 日ごろから健康・保健に関するニュースに関心をもつこと。 ③ 自分の考えを色々な形で、相手に伝えられるようにすること。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月		第1章 現代社会と健康 ①日本における健康課題の変遷 ②健康の考え方と成り立ち ③ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ④健康に関する意思決定・行動選択		○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	⑬喫煙と健康 ⑭飲酒と健康 ⑮薬物乱用と健康		○	○	○
9月 ～ 10月		第1章 現代社会と健康 ⑤現代における感染症の問題 ⑥感染症の予防 ⑦性感染症・エイズとその予防 ⑧生活習慣の予防と回復		○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	⑨身体活動・運動と健康 ⑩食事と健康 ⑪休養・睡眠と健康 ⑫がんの予防と回復 ⑯精神疾患の特徴 ⑰精神疾患の対応		○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第2章 安全な社会生活 ①事故の現状と発生要因 ②交通事故防止の取り組み ③安全な社会の形成 ④応急手当の意義と救急医療体制 ⑤心肺蘇生法 ⑥日常的な応急手当		○	○	○

## 観点別評価ルーブリック

教科 保健体育  
科目 体育

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題の解決や、戦術の理解を旨として運動を行うことができる。</li> <li>自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。</li> <li>運動技能の構造と運動の学び方理解している。</li> <li>各競技のルール、練習方法、戦術について、言ったり書きだしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>体力の向上</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫改善 (単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技における運動技能の習得</li> <li>自己の運動能力に応じた運動強度</li> <li>各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解</li> </ul> <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技における運動技能の習得</li> <li>自己の運動能力に応じた運動強度</li> <li>各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解</li> </ul> <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各競技における運動技能の習得</li> <li>自己の運動能力に応じた運動強度</li> <li>各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解</li> </ul> <p>以上の項目が4割未満で達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。</li> <li>課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫改善 (単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に積極的に取り組んでいる。</li> <li>自己の思考や判断について表現力が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に取り組んでいる。</li> <li>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことが乏しい。</li> <li>課題解決に取り組むことが乏しい。</li> <li>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。</li> <li>礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付け、施設・設備の整備を積極的に取り組んでいる。</li> <li>健康・安全に留意して、自ら運動をしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の行い方の理解</li> <li>技能の習得</li> <li>自己や仲間の課題の発見</li> <li>練習方法の工夫改善 (単元テスト)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組む、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準である。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が乏しい。</li> <li>授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。</li> </ul>

## 観点別評価ルーブリック

教科 保健体育  
科目 保健

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人及び社会生活における健康、安全について理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>※応急手当について、習得した知識及び技能を適切に実践することができる。</li> </ul>	課題研究 定期検査等 心肺蘇生法 (1年)	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が8割以上達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割以上8割未満達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割未満達成できている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康について、自他や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。</li> </ul>	課題研究 定期検査等	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究による自己の思考や判断について、表現力が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究による自己の思考や判断について、表現力が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究による自己の思考や判断について、表現力が乏しい。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の健康やそれを支える環境づくり及び安全な社会の形成に興味を持ち、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>課題研究や学習活動を振り返り、その結果を考察し、評価及び改善しようとしている。</li> </ul>	課題研究 自己評価 他者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が優れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が標準である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が乏しい。</li> </ul>

## 7 芸術科

### 音楽

#### 1 音楽Ⅰ

「音楽Ⅰ」は中学校における学習を基礎にして、「A表現」（歌唱・器楽・創作）及び「B鑑賞」についての幅広い活動を展開し、「音楽Ⅱ」や専門科目における発展的な学習の基礎を養います。

#### 2 目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指します。

#### 3 評価の観点

- 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする
- 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする
- 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う

#### 4 1学年の学習内容

##### 【表現】

歌唱・器楽

- ・表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を創意工夫する
- ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりを理解する
- ・言葉の特性と曲種に応じた発声、曲種と楽器の音色や奏法との関わりを理解する
- ・様々な表現形態による表現の特徴を理解する
- ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技術を身に付ける

##### 【鑑賞】

- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く
- ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解する

#### 5 その他

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える
- ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
音楽 I		2	MOUSA①	My Song		
<b>【到達目標】</b>		① 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせられるようにする ② 生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する				
<b>【学習上の留意点】</b>		① 授業への取り組みや提出物も重視しています ② 中間及び期末テストは実施しませんが、授業内に実技テストや発表があります				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月～5月	1学期 中間 未実施	《表現》 歌唱 器楽	□表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を工夫したか	○		○
6月～7月	1学期 期末 未実施	《表現・鑑賞》 歌唱 器楽	□曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解したか □言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解したか	○	○	○
9月～10月	2学期 中間 未実施	《表現・鑑賞》 歌唱 器楽	□鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか	○	○	○
11月～12月	2学期 期末 未実施	《表現》 合唱 器楽	□表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を工夫したか □曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解したか	○	○	○
1月～3月	3学期 学年末 未実施	《表現》 合唱 器楽	□様々な表現による表現の特徴を理解したか □創意工夫を生かした表現に必要な技術を身に付けたか □音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解したか	○	○	○

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	表現鑑賞発表 提出物	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割未満達成できている
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	表現鑑賞発表 提出物	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割未満達成できている
主体的に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	表現鑑賞発表 提出物	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 7割以上達成できている	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割以上7割未満達成できている	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割未満達成できている

# 美術

## 1 美術ってなに

美術って何だろう。みなさんの身の回りを見渡して見て下さい。家具がありますね、建物がありますね、服をまっていますね、スマホを持っていますね。これらすべての物は美術に関係したものです。現代の美術は、生活の一部であり社会とのかかわりが大きい分野です。そして、社会を見渡せば美術に関連した仕事や商品などがたくさんあります。

では、なぜ学ぶのだろうか。美術を学ぶ意味は、作品を描き作ることを通して「人間を知ること」です。例えば、文学でも歴史学・経済学でも人間を研究する学問であり、また理数系も自然界の法則について研究する物理や化学や数学や薬学などありますが人間の体内での化学変化などを調べているわけです。分野や方法は違っても人間を知ることには変わりはないのです。美術を通して試行錯誤を繰り返し、自分と向き合ってみましょう。

## 2 目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化について理解を深める。

## 3 評価の観点

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に取り組む態度

## 4 1年次の学習内容

### (1) 【絵画】

- ア 感じ取ったことや考えたことから主題を生成する。
- イ 表現形式の特徴を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練る。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かす。
- エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現する。

### (2) 【デザイン】

- ア 目的、機能、美しさなどを考え主題を生成する。
- イ 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かす。
- エ 表現方法を工夫し、目的や計画をもとに表現する。

## 5 その他

- 必要な美術道具については、授業が開始されてからお知らせします。
- 美術系及び建築系への進学を考えている者は、実技試験や作品が必要になるので早めに試験対策に取り組んでください。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
美術 I		2	高校生の美術 1 (日本文教出版)			
【到達目標】		①油絵の制作を通して基礎・基本を踏まえて対象を深く観察し、造形美の表現を学びます。 ②視覚伝達デザインの基礎を理解し、社会と美術のかかわりについて学びます。				
【学習上の留意点】		①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ②中間及び期末テストは実施しません。				
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	≪作品制作≫ 油絵「静物画」 ≪調べ学習≫ 美術史に関するテーマ	<input type="checkbox"/> デッサンについて学ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 幾何形体を使い、形の取り方について理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構図の取り方を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 静物画をデッサンする。 <input type="checkbox"/> 油絵の道具を適切に扱うことができたか。	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	≪作品制作≫ 油絵「静物画」 ≪調べ学習≫ 美術史に関するテーマ	<input type="checkbox"/> 着色の表現について理解できたか。(おつゆ描き) <input type="checkbox"/> 油絵の特徴を生かし石膏や透明瓶などのモチーフを描くことができたか。 <input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 制作を振り返り、ポートフォリオを作成できたか。	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	≪作品制作≫ デザイン 「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ	<input type="checkbox"/> 社会とデザインの関わりが理解できたか <input type="checkbox"/> 果物の特徴を捉えてデッサンスケッチができたか。 <input type="checkbox"/> 果物をイラスト化するために発想の工夫がみられるか。 <input type="checkbox"/> 作品の完成度を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 質感の表現や配色に工夫がみられるか。	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	≪作品制作≫ デザイン 「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ	<input type="checkbox"/> モチーフを用いて画面を構成し、イラストをレイアウトできたか。 <input type="checkbox"/> ただ描写するだけでなく、どう見せるのか、どう構成するのか、どう組み合わせるのか。主役と脇役の関係やバランスをとることができたか。 <input type="checkbox"/> 着色方法を理解し、美しい彩色ができたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	≪作品制作≫ デザイン 「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ 美術史に関するテーマ	<input type="checkbox"/> 作品を完成させることが出来たか。 <input type="checkbox"/> 作成を振り返り、ポートフォリオを作成できたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。	○	○	○

## 観点別評価ルーブリック

教科 美術  
科目 美術 1

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	・絵画制作 ・デジタル制作	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをとくに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをとくに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをとくに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しき、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもつて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。	・絵画制作 ・デジタル制作 ・鑑賞	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えられている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しきを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えられている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しきを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えられている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しきを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割未満で達成できている。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われている。	・絵画制作 ・デジタル制作 ・鑑賞	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割未満で達成できている。

# 書道

## 1) 書道 I

書道の「道」とは何だろう？

漢字を生み出した古代中国の春秋戦国時代に儒教思想が発展し思想家「孔子」によって広まりました。孔子はその中で、人の生き方について「道」の字を使って説きました。「人はどう生きるのか。」授業では中国の古典や日本の平安時代の仮名に触れて、それらの文字をしっかりと鑑賞し、少しでも手本に近づくように半紙に臨書します。書を通して穏やかな気持ちで自分自身を見つめてみましょう。

## 2) 目標

書くことだけでなく、漢字、平仮名の歴史を学び、生涯にわたり最も身近な漢字や仮名文字の美しさと、成立の歴史を理解し教養を高めてほしいです。また、篆刻を通して筆以外の文字の美しさを学びます。

## 3) 評価の観点

- ・書への関心、意欲、態度
- ・見る力、考える力、想像力
- ・表現の技術力
- ・道具の使い方
- ・ノートの作成

## 4) 1年生の学習内容

ア、文字の発生と漢字の歴史

イ、楷書の学習（唐代の古典中心）

ウ、行書の学習（東晋の王羲之、日本の空海中心）

エ、篆刻の学習（2,3 cmの石に自分の名前を刻す）

オ、仮名の学習（日本の平安時代の和歌・日本の文字の起源と発展の歴史。平安時代の和歌による変体仮名の読み）

## 5) 授業の仕方

- ・毎時間ごとに提出作品があります。（欠席・公欠の場合、後に必ず提出のこと）
- ・ノート（必ずA4）を用意し授業内容をしっかりとノートに取ります。（期末考査時に集めてチェックします）

その他)

授業に必要な用具

大筆・小筆・墨液・硯・文鎮・半紙・教科書

下敷きは学校で用意します。

\*筆については最初の授業で点検し、適合しない筆は購入してもらいます。

\*教材費の徴収があります。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
書道 I		2	東京書籍 書道 I			
【到達目標】		①漢字の発生と発展から楷書完成までの歴史を学び理解する。 ②中国の古典を観賞し、半紙に臨書する。 ③漢字から仮名への変化を学び平安時代の和歌に触れる。 ④篆刻を学ぶ。				
【学習上の留意点】		①授業ごとに提出作品があります。（欠席・公欠の時は後日提出のこと） ②ノートを作り、毎授業ごとのノートをきちんと取ります。（チェック有） ③中間・期末テストは実施しません。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の発生と発展から楷書完成</li> <li>楷書の基本点画</li> <li>執筆法</li> <li>楷書の学習（九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の歴史を理解できたか</li> <li>楷書の基本点画を理解できたか</li> <li>手本をしっかり見る観賞力を身に付けたか</li> </ul>	○	○	○
6月 ～ 7月	1学期 期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>楷書の学習 造像記</li> <li>行書の学習 蘭亭序</li> <li>隷書の学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆使いを理解し表現できたか</li> <li>筆の使い方（執筆法）を理解できているか</li> <li>行書の筆使いを理解する。</li> <li>曹全碑の筆遣いを学ぶ。</li> </ul>	○	○	○
9月 ～ 10月	2学期 中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆刻の学習</li> <li>2,3cmの石に自分の名前を彫る 白文・文字の部分を彫り押ししたときに文字が白くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名前の文字を篆書に変更する。</li> <li>石の大きさに文字をデザインする。</li> <li>石に文字を入れ、文字の部分を彫る。</li> </ul>	○	○	○
11月 ～ 12月	2学期 期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆刻の学習</li> <li>仮名の学習 仮名の発生と発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>印箋の制作（押印する）</li> <li>完成</li> <li>日本の仮名の歴史を理解したか</li> </ul>	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の学習 平仮名と変体仮名 蓬萊切（臨書） 高野切れでの和歌の読み （グループで初見の和歌を読み発表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名と変体仮名の違いを理解できたか</li> <li>平安時代の和歌を読めるか</li> <li>小筆の使い方を理解できたか</li> </ul>	○	○	○

## 観点別評価ルーブリック

教科  
書道  
科目  
書道 1

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨書作品制作</li> <li>・ 漢字、仮名、篆刻</li> </ul>	中国、日本の歴史(AD1100まで)の対比を理解する・漢字、仮名文字の発生と発展の歴史を理解する。習得。時代の变化による字体の違いを鑑賞し理解する。篆刻の課題に触れて、筆で書くだけでも様々な表現を学ぶ。・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。</li> </ul>
思考・判断・表現	書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨書作品制作</li> <li>・ 漢字、仮名、篆刻</li> </ul>	中国の殷の甲骨文字から楷書の完成までの経緯を理解し違いを鑑賞する。漢字に合わせた筆使いの違いを理解する。仮名(平安古今和歌集)の読み方小筆の使い方を理解する。仮名の字源を理解する。篆刻に触れて道具の使い方を考える。・ 該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造してゆく態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨書作品制作</li> <li>・ 漢字、仮名</li> <li>・ 篆刻</li> </ul>	書道ノートの作成(学期末に感想文も記載し提出)。課題作品の毎回の提出(含公欠、欠席時)。積極的な授業への参加(授業中の添削、挨拶、発言、居眠り、声の大きさの生徒への配慮。出欠席の割合(実技教科)。・ 該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。</li> </ul>

## 8 英語科

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
英語コミュニケーション I		3	Heartening English Communication I	Heartening Workbook, 学習ノート, 必携英単語 LEAP		
【到達目標】		聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなどの総合的な言語活動を通して5つの領域を総合的に扱い、総合的な英語運用能力を伸ばす。				
【学習上の留意点】		①日々の予習復習、課題に対して主体的、継続的に取り組む。 ②Weekly Test、課題テスト、実力テストを利用し、学習内容を定着させる。				
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	Lesson 1: Who is your hero?  Lesson 2: Go, Anzu!	時制  完了形	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6月 ～ 7月	1学期 期末	Lesson 3: We can make a difference  Lesson 4: Creative problem solving	助動詞  受動態	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9月 ～ 10月	2学期 中間	Lesson 5: Canned bread to feed the world  Lesson 6: Could we have a real Jurassic Park?	不定詞  動名詞	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11月 ～ 12月	2学期 期末	Lesson 7: Behind the price tag  Lesson 8: The world's winter festivals	分詞  比較	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1月 ～ 3月	3学期 学年末	Lesson 9: Slackers in the Ant Nest  Lesson 10: Capturing the reality of the world	関係詞  仮定法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※ Weekly Test : 週に1回必携英単語 LEAP の範囲より出題

※ 課題テスト : 長期休業中に出された課題より出題

※ 実力テスト : それまでに学習した単元より出題

科目名等	単位数	教科書名	副教材等			
論理・表現 I	2	FACTBOOK English Logic and Expression I	総合英語 FACTBOOK, マイノート 総合英語 FACTBOOK English Grammar Standard Vintage 英文法・語法			
<b>【到達目標】</b>	①文法などの言語材料を実際のコミュニケーションにおいて効果的に活用できる技能を身に付ける。 ②スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して、話すことと書くことを中心とした発信力を強化する。					
<b>【学習上の留意点】</b>	①日々の予習復習、課題に対して主体的、継続的に取り組む。 ②Weekly Test、課題テスト、実力テストを利用し、学習内容を定着させる。					
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	Unit 1 : Smart home, smart city Unit 2 : History and future of our town	時制  完了形	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6月 ～ 7月	1学期 期末	Unit 3 : Preparing for a natural Disaster Unit 4 : Water supporting our lives	助動詞  受動態	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9月 ～ 10月	2学期 中間	Unit 5 : Save food you can still eat! Unit 6 : How can we become more health-conscious?	不定詞  動名詞	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11月 ～ 12月	2学期 期末	Unit 7 : How many clothes do you buy? Unit 8 : How do you decide which products to buy?	分詞  比較	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1月 ～ 3月	3学期 学年末	Unit 9 : A variety of ways to improve your English Unit 10 : How can we become foreigner-friendly?	関係詞  仮定法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※ Weekly Test : 週に1回 Vintage 英文法・語法の範囲より出題

※ 課題テスト : 長期休業中に出された課題より出題

※ 実力テスト : それまでに学習した単元より出題

※ Performance Test : 学期に2回、単元に関連した内容で Speaking Test を実施



## 9 家庭科

### 「家庭基礎」

科目名等		単位数	教科書名	副教材等		
家庭基礎		2	家庭基礎 気づく力 築く未来 実教出版	2025最新生活ハンドブック資料&成分表		
【到達目標】		① 生活者としての高校生になる。 ② 生活者として社会の中で考え行動できる。 ③ 豊かに生きるための基礎力を身につける。				
【学習上の留意点】		① 毎時間しっかり取り組み、何を学んだか振り返りをしましょう。 ② 家事を担当し、学んだことを実践しましょう。 ③ 出席を重視し、テストや実習は勿論、提出物もしっかり成し遂げましょう。				
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目	主に用いる評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 これからの人生について考えてみよう 第2章 自分らしい生き方と家族 第6章 食生活をつくる	<input type="checkbox"/> 生涯発達と発達課題  <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 職業労働と家事労働 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 栄養と食品	○	○	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第8章 住生活をつくる 第9章 消費行動を考える	<input type="checkbox"/> 食事の計画と調理 <input type="checkbox"/> 人間と住まい <input type="checkbox"/> 住まいの文化 <input type="checkbox"/> 住まいを計画する <input type="checkbox"/> 持続可能なライフスタイル	○	○	
			<input type="checkbox"/> *実習室の整備 <input type="checkbox"/> 夏休みの課題			○
9月 ～ 10月	2学期 中間	第7章 衣生活をつくる	<input type="checkbox"/> 生活小物の製作（衣服管理に必要な技術） <input type="checkbox"/> カラーコーディネート		○	○
			<input type="checkbox"/> 人と衣服 <input type="checkbox"/> 衣服の素材 <input type="checkbox"/> 衣服の選択・管理	○	○	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第4章 高齢者とかかわる 第5章 社会とかかわる 第10章 経済的に自立する	<input type="checkbox"/> 高齢社会 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 暮らしと経済 <input type="checkbox"/> 将来のライフプランニング <input type="checkbox"/> *実習室の整備	○	○	○
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 子どもとかかわる	<input type="checkbox"/> 子どもとは・子どもの発達 <input type="checkbox"/> 子どもの生活・子どもをはぐくむ <input type="checkbox"/> 子どものための社会福祉 <input type="checkbox"/> *実習室の整備	○	○	○

- ※ テストや提出物では、使用する文言は教科書の表記を基本とします。漢字や単語を大切にしましょう。
- ※ 夏休みの宿題として“ホームプロジェクト”を実施し、そのレポート提出があります。
- ※ 年間3～4回調理実習が入ります。（エプロン・三角巾・マスク・ふきん2枚以上を準備してください）
- ※ 教科書と一緒に購入してもらった“家庭科ノート”に記入する方法で学習を進めますが、ワークシートなどを入れる透明のク A4 クリアホルダーも用意してください。
- ※ 定期考査は、毎学期、期末考査を実施します。

## 観点別評価ルーブリック

教科 家庭  
科目 家庭基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>実習等</li> <li>夏休みの課題</li> <li>ホームプロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当問題80%以上程度の得点率</li> <li>安全や衛生に十分留意し工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当問題50%以上80%未満程度の得点率</li> <li>ねらいを理解し的確に進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当問題50%未満程度の得点率</li> <li>進め方に改善が求められる。</li> </ul>
思考・判断・表現	生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習等</li> <li>各種ワークシート</li> <li>作品製作</li> <li>ノート</li> <li>夏休みの課題</li> <li>ホームプロジェクト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを正しく解釈し、さらにその知識を活用し、よりよく表現できている。</li> <li>具体例を想像するなど他の生活場面等で活用できる程度に習得している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習で理解したことを表現できている。</li> <li>問題意識を持って習得に努力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の理解に不十分なところが見受けられ、改善が望まれる。</li> <li>表現が不十分で伝わりにくいところがある。</li> </ul>
学習的に取り組む態度	よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの課題</li> <li>ホームプロジェクト</li> <li>各種自己評価表</li> <li>ノート</li> <li>実習等レポート</li> <li>行動観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画性をもって着実に各種課題に取り組んでいる。</li> <li>単元ごとに、気づき(発見)や疑問を見いだした後の課題としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画性をもって各種課題に取り組んでいる。</li> <li>学習したことを整理できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種課題に取り組むにあたって計画性が求められる。</li> <li>学習したことを整理することに工夫が求められる。</li> </ul>

# 10 STEAMS TIME I

## STEAMS TIME I (2単位) 年間実施計画

2クラス1講座で授業を展開し、各講座を7人の先生が担当します。

<b>情報 I</b>	<p>必修科目「情報 I」の代替として実施します。</p> <p>「情報 I」の内容は「STEAMS TIME III」でも学びます。</p> <p>探究活動の基本となるリテラシーを学びます。</p>
<b>BEST CLaSS</b>	<p>ネイティブ教員が担当する英語の授業です。</p> <p><b>B</b>asic <b>E</b>nglish <b>S</b>kills <b>T</b>raining <b>C</b>ommunicative <b>L</b>earning and <b>S</b>uccessful <b>S</b>trategies</p> <p>英語を用いた発表能力を高めます。</p>
<b>課題研究</b>	<p>課題研究の基礎となるプログラムを実施します。</p> <p>基礎研究：課題研究を行うのに必要な知識、実験手法の習得</p> <p>5つのラボと7つのゼミからゼミ・ラボを決定します。</p> <p>ラボ      物理   化学   生物   地学      スポーツサイエンス</p> <p>            数学   国語   英語      家庭生活   情報</p> <p>ゼミ</p> <p>            地歴公民   芸術</p>

年間授業計画(予定)

	1学期	2学期	3学期	年間
	9週	10週	6週	25週
<b>情報 I</b>	9時間	2時間	4時間	15時間
<b>BEST CLaSS</b>	4時間	8時間	3時間	15時間
<b>課題研究</b>	5時間	10時間	5時間	20時間

各学期の評価は出ません。

年間を通しての3段階の観点別評価と5段階の評定が出ます。

課題におけるプロセス、成果物、発表等について、評価します。

※ **高い成果を生みだせる人の行動特性（コンピテンシー）**を本校の校訓「自主・自律・創造」に照らし合わせ、それらの力の成長を評価していきます。

**自主**：課題発見力、探究する力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力

**自律** 他者と議論する力、周りを巻き込む力、共創力

**創造** プロジェクト作成力、新しい価値を生み出す力、批判的思考力・創造的思考力

※ **与えられた材料や情報などを正しく理解・分析し、活用する能力（リテラシー）**をどのように身につけ、高められたかを評価していきます。

### 情報リテラシー

与えられた情報を収集・分析し、活用する能力。

### コンピューターリテラシー

パソコンや携帯など、IT機器を使用して情報を収集する知識や能力。

### ネットリテラシー

インターネットに関連した知識全般における能力。インターネットを正しく利用するための知識や、活用能力はもちろんのこと、SNSなどによるトラブル回避能力なども含まれます。

### メディアリテラシー

情報の発信源となるテレビ、新聞、ラジオ、雑誌、インターネットといったメディアから集めた膨大な情報を整理して主体的に読み解く能力や、メディアそのものを利用する能力。

### ビジネスリテラシー

ビジネス全般に共通して必要とされる知識や能力。主に、コミュニケーション能力や対人スキル、物事の筋道を立てて考えることのできる思考能力のことを指します。

課題前には具体的なルーブリックが提示されます。ルーブリック評価を確認し、思考力や創造力など、どのような力を身に付けたかを意識して課題に取り組んでください。

課題の取り組み状況に対し、個々の達成度、主体的に取り組んでいるか、自己の課題等について実施されるアンケート等も評価対象となります。